
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより 第107号 (通巻第174号)

2012年4月27日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen-ml@yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※ このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■ センター長就任のご挨拶

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター長 時友 裕紀子

昨年2月の山梨大学FD研修会で、北原和夫先生(当時、国際基督教大学教授、日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」委員長)のご講演を聴かせていただく機会を得ました。印象に残ったひとつは、「最近流行のFD(Faculty Development)は授業技術の向上であって、本当のFDは教育スキルを磨くことではなく、常に教員同士の知的交流が行われることにより実現する」というお話でした。

教育実践総合センターは、本学における教員養成や現職教員研修等の事業に多くの実績を挙げてきました。今後も引き続き、事業の充実をはかるとともに、各事業が大学教員間、教員-学生、教員-現職教員、学生-現職教員など、専門や立場を越えた自由な知的交流の場として発展していくことも重要と思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 教育実践総合センターのスタッフとなりました

教授 蘓原 桂

この4月より、山梨県教育委員会と山梨大学との交流人事により教育実践総合センターにお世話になっております蘓原桂と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。3月までは甲府市立伊勢小学校に勤務していました。それ以前は山梨県教育委員会の指導主事として主に小・中学校の道徳教育の担当をしていた経験もあります。

新しい学習指導要領が今年は中学校でも全面実施となりました。小学校では昨年度全面実施でしたが、私が勤務した伊勢小学校はもとより、多くの小学校で「小学校の内容が増えた」「勉強が終わらない」といった先生方の声を多く耳にしました。「生きる力」をはぐくむための様々な取組が各学校で行われています。このような中、「教員の資質向上」は教員養成段階からの取組が大変重要となってきます。実務家の教員としてこれまでささやかではありますが培ってきた経験を生かし、現場の声を伝えると共に、研究者の先生方と連携・協力して、将来教職の道をめざす皆さんのお役に立ちたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

■ よろしくお願ひします

客員教授 藤森 顕治

平成24年4月より、教育実践総合センターの一員として勤務することになりました。山梨大学を卒業して以来三十有余年、小中学校での現場や山梨県教育委員会に勤務し、平成22年度末に定年退職をしました。

教育実践総合センターは平成元年に開設されて以来今年度で24年目を迎えますが、今、教員になること自体非常に厳しい状況にあるとともに、学校現場における教師の資質向上はきわめて重要な課題であるという状況の中、本センターの存在価値は非常に大きなものがあると考えます。私自身、客員教授として迎えられている立場や自己の果たすべき役割を常に自覚し、微力ではありますが教員養成や教師の研修に力を注いで参りたいと思います。

ご指導・ご支援、よろしくお願ひいたします。

■ 就任のご挨拶

客員教授 川村 直廣

この4月より瀧田二三雄先生の後任として、教育実践総合センターに参りました川村直廣と申します。長い間、山梨県の高等学校で勤務させていただいておりました。

さて今日、社会状況の急激な変化は、社会全体で様々な課題を生じさせ、そして、児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係しているとも指摘されています。

こうした中で、学校現場では様々な教育課題への対応に迫られております。また、今後10年間に、教員全体の約3分の1の20万人弱が退職し、経験の浅い教員が大量に誕生することが懸念されております。今まさに教員の資質能力の向上と育成が求められています。当センターにおいて実践されている学校教育に関わる様々な課題を県下の教育関係機関と連携して研究し、その成果を学校教育の実践や教員の育成・研修に役立てていくことには大きな意義があると考えます。

私自身誠に微力ではありますが、若い学生の皆さんから元気ももらい、スタッフの皆様のご指導をいただきながら全力を注がせていただきたいと思います。と思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

■ 大変お世話になりました。

平成24年3月で県との人事交流で来られていた嶋田一彦先生が2年の任期を終えられ、また、義務教育客員教授の両宮亘先生と高校教育客員教授の瀧田二三雄先生も退任されました。先生方の本学部教員養成に対するお力添えに対し心より感謝したいと思います。また、さまざまな形で三名の先生方をご支援くださいました諸先生方のご厚情に御礼申し上げます。

■ 教育ボランティアガイダンスのご報告

平成24年度戦略的プロジェクトー地域連携事業支援プロジェクトー教員志望大学生による支援事業として、教育ボランティア活動が実施されることになりました。4月18日(水)に本学M-11・12教室において、教育ボランティア学生運営委員会の学生が運営の中心となり、参加希望の学生を対象にした教育ボランティアガイダンスが開催されました。

時友センター長の話や活動概要の説明に続き、甲府市教育委員会をはじめ18箇所の受入先から活動内容等の御説明がなされました。参加学生数も160人を超え、各受入先の説明に真剣に耳を傾けるなど、関心の高さが伺えました。学生の皆さん自身が地域貢献活動を実際に行うことにより、座学では得られない多くの学びが体得できることを期待しております。



学生運営委員会による運営



受入先からの活動内容の説明

■ 平成24年度「期間採用者等研修」のお知らせ

平成24年度 期間採用者等研修を下記のとおり開催いたします。

参加費は無料で、学生のみなさんも全ての研修に参加可能です。5月18日(金)までに実践センターに申し込むことになっておりますが、当日も受け付けております。

講師名や時間設定など、より詳しい内容は、実践センターのホームページで御確認ください。

日時：平成24年5月26日(土) 午前9:10~14:30(特別研修は16:45まで)

会場：山梨大学教育人間科学部 J号館5階A会議室 他

研修内容：

研修1：教科等指導法研修

校種別研修「児童・生徒を引きつける授業の工夫」

- ・小学校、中学校、高等学校の3部会に分かれ、現職教員の講演、グループ討議・質疑などを行います。

研修2：学級経営研修

校種別研修「児童・生徒理解と学級・ホームルームづくりのヒント」

- ・小学校、中学校、高等学校の3部会に分かれ、現職教員の講演、グループ討議・質疑などを行います。

特別研修：「教職に関する特別研修」※特別研修については、学生は研修Bのみ受講可
研修A「教師の自己表現力」
研修B「教職に役立つ教育法規・制度の知識」

■ 実践センター研究紀要と実践センターニュースの発行

実践センター研究紀要「教育実践学研究」第17号と実践センターニュース第20号が発行されました。実践センターWebサイトからご覧いただけます。

実践センター研究紀要は、教育実践研究や基礎研究についての本学部教員、大学院生等による投稿論文集で、今回は12篇が掲載されています。実践センターニュースは本センターのみならず教育人間科学部における教員養成・教員研修等の教師教育に係る事業や活動を報告したものです。本年度の研究紀要及びセンターニュースも年度末の発行をめざしておりますので、先生方には投稿をご検討いただくとともに、ご指導の大学院生にも積極的に研究成果を投稿するようご指導いただければ、と思います。

■ 平成24年度教育実践センター共同利用施設・設備の利用申請について

教育実践総合センターの事業・教育・研究にご協力いただきありがとうございます。さて、新年度がはじまってもうすぐ1か月になりますが、多目的教室（J514）、授業研究演習室（J422）、マルチメディア教材作成室（J324）等の教育実践総合センター施設設備を利用するにあたっては、利用申請をしていただくことになっております。なお、生命環境学部開設にともなう全学的な施設移行により、8月ごろから、上記各教室の利用方法や利用申請の方法が変更される見込みです。

毎週特定の曜日・時限に継続して利用する定期利用の場合は、時間割・シラバス等への利用教室指定に加え、教育実践総合センター事務室（J424）で申請用紙への記入・提出をお願いします。

○問い合わせ：教育実践総合センター事務室
（内線：8325・メール：jissen-ml@yamanashi.ac.jp）

■ 「教育相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

教育相談室（Y-304）をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては、事前に教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。鍵はセンター事務室にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出ししております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。